

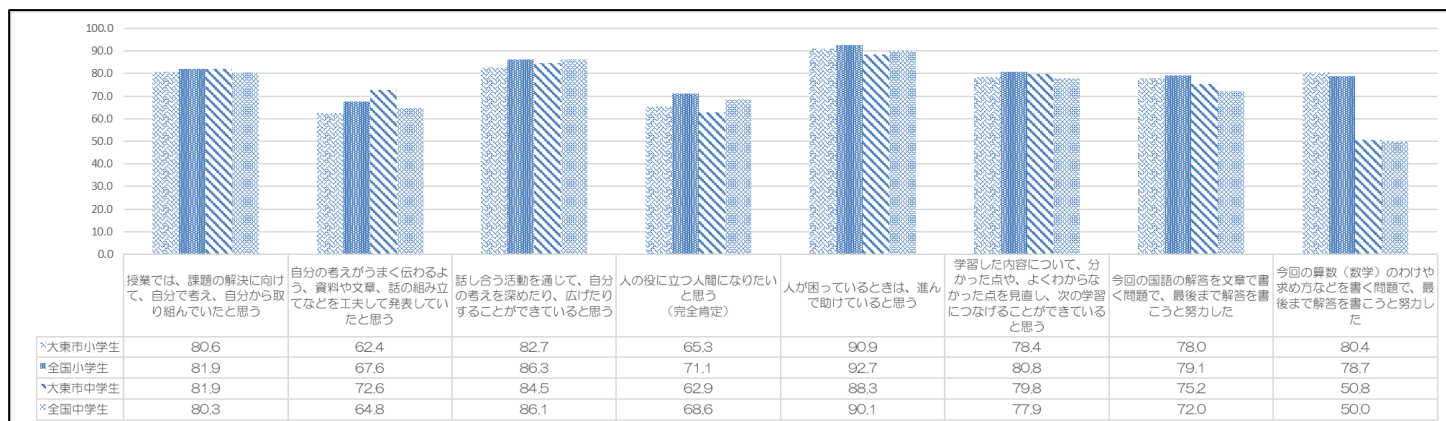
学習状況調査から

大東市教育委員会では、大東市教育大綱及び「だいとう教育ビジョン2022」の「大東のめざす子ども像」に向けて、授業改善に取り組んでいます。



授業改善の成果と課題について

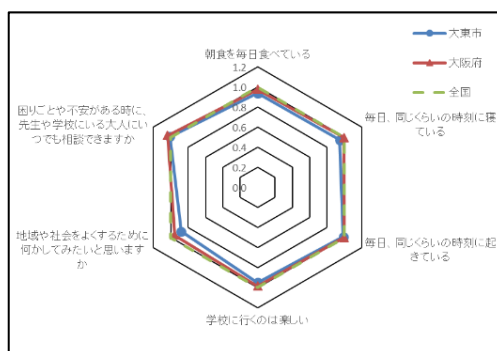
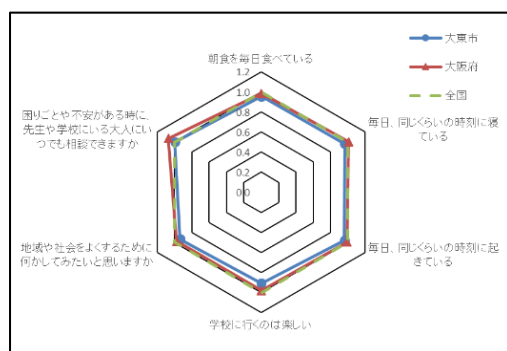
下の表は今年度の小・中学校における「授業改善」関連のアンケートを全国と比較したものです。中学校では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる」が全国平均を超えています。また小・中学校とも、「人が困っているときは、進んで助けている」は、ほぼ全国と同様であり、大東市が取り組んでいる「学び合う」授業づくりを中心に、教員が児童・生徒個々の教育的ニーズを把握して丁寧に関わったり、仲間との交流をとおして児童・生徒が課題の解決に取り組み、自分の考えを表現したりする活動が充実している成果が見られます。今後も「主体的・対話的で深い学び」の一層の実現をめざし、「だいとう教育ビジョン2022～教員の確かな関わりによる「学び合う」学校園づくり～」に基づいた授業改善に取り組んでまいります。



「授業改善」関連質問紙調査結果 上記の棒グラフは左から、大東市小学生→全国小学生→大東市中学生→全国中学生の順

児童・生徒質問紙より

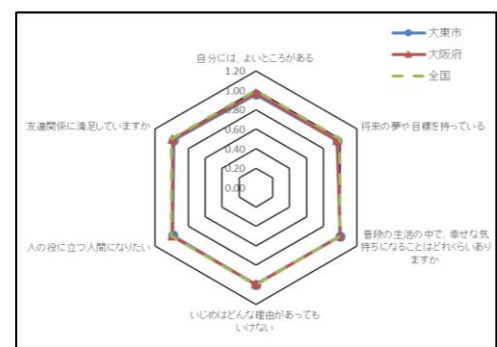
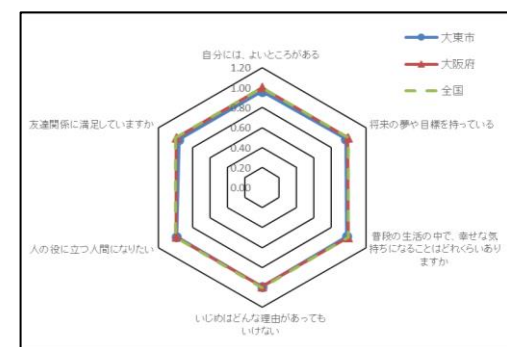
【資料1】生活の様子（左：小学校、右：中学校）



*小・中学校とも、生活習慣はほぼ全国並みで、改善状態が続いています。

*困りごとや不安がある時の先生や学校の大人への相談については、全国を上回っており、大東市の先生方が日々丁寧に子どもたちと関わっていることがわかります。

【資料2】自己肯定感・規範意識（左：小学校、右：中学校）



*小・中学校とも、ほとんどの項目で全国並みです。

*小・中学校とも、「いじめは、どんな理由があってもいけない」は、95%以上と高く、規範意識の高さが伺えます。

これまでの「学び合う」授業づくりをとおした子どもどうしのつながりの醸成や、学校・家庭・地域の丁寧な関わり等により、子どもたちの生活習慣や自己肯定感・規範意識等、集団の一員としての生活態度や自覚が育まれています。しかしながら、変化の激しい社会の中で各々が他者と協働して生きる力を育成するには、子どもを取り巻く学校・家庭・地域が一層連携し、さまざまな場所や場面での、多くの人との多様な経験をとおして、子どもの成長を促し、見守ることが重要です。